

## 職員による自己評価

## A環境面

人員配置については適切かどうか、どちらともいえないという意見が多かった。バリアフリー化はされている。満足のいくスペースは無いが工夫しながら環境設定できている。

## B児童への支援内容

多職種（児童指導員、保育士、看護師、セラピスト）で連携しそれぞれの役割の中で支援出来ている。好きな事や得意な事を伸ばせる支援を心掛け、最大限自力を活かし、活動に参加出来るように姿勢や使用する道具、環境を整えている。

## C関係機関との連携

学校や他事業所等と電話での連絡・相談は随時行っていたが、カンファレンスや訪問は実施出来ていない。医療機関との連携は併設のクリニックを通して出来ている。

## D保護者への説明責任・信頼関係

支援の内容や利用中の様子を送迎時、面談時等に細かく説明する事が出来ている。保護者会を開催する事が出来た。

## E非常対応

年に2回火災想定避難訓練を実施。又、災害用の注入物品の預かりや緊急時（大雨、雪）のメール配信については出来ている。

## 保護者による評価

## A環境面

活動スペースや職員配置、バリアフリー化等の評価は概ね高い評価であった。約1割の方からは、職員配置やスペースについて適正かどうか不明、どちらともいえないとの評価であった。

## B児童への支援内容

児童への支援については一人一人にあった支援を行っていると高い評価だった。放課後児童クラブとの交流や障害がない子どもと活動する機会の有無についてコロナの影響で難しいのではという意見が多数あった。

## C事業所からの情報発信

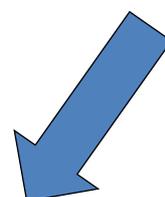
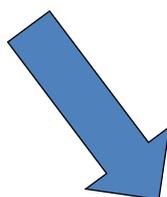
日々の様子や活動や行事については、「放デイ日より」、広報誌、ブログでの発信は出来ているが数が少なく、もっと様子等が知れる機会があれば良いとの意見があった。

## D保護者への説明責任・信頼関係

送迎時に利用中の様子を細かく伝えてもらっているが職員によって差があるとの意見があった。面談は丁寧にやってくれているとの意見があった。

## E非常対応

緊急時、防犯、感染症についてのマニュアルの周知が不足しているとの意見があった。



## 事業所内での分析

### 【共通点】

- ・様々な工夫をしながら個別性を大切にされた支援を行っている事に関して職員は自信を持って行き、保護者からも児童への支援に対しての評価は高かった。
- ・子ども達が楽しめるよう活動が固定化しない事や以前に行った活動でも視点を変えて取り組んでいる。

### 【相違点】

- ・送迎時を含めた緊急時の対応や年2回の避難訓練は行っているが情報の周知不足や緊急時や防犯対策についての不安がある。

## 分析・検討してみて…

### 事業所の強み

- ・多職種が連携し、様々な方向からアプローチを行う事によって身体機能、認知機能に働きかける事ができる。
- ・クリニックが併設されており、看護師3名を配置する事で医療的ケアがある子どもが安心して通所できる。

### 事業所の改善点

- ・子ども達の通所中の様子をもっと保護者に知ってもらえるようにする。
- ・避難訓練の実施や緊急時に対応マニュアルなど整備されているが保護者に上手く伝わっていない。

## 事業所の改善への取り組み

- ・「放デイだより」や広報誌、ブログ以外にも写真や動画等、保護者が通所中の様子をもっと知れるようなツールの検討を来年度中に行う。
- ・重要な連絡や対応については書面での周知と面談を活用し口頭でも伝えていく。来年度中に障害児の安全の確保を図るため、安全計画の策定と保護者への周知を行う。

## ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

私たちは子ども達の出来る事、得意な事を伸ばす、自力を活かした支援を行うという事を心掛けて子ども達と向き合っています。その部分に関しては十分伝わっていると感じたが、緊急時の対応や避難訓練の実施など相手に上手く伝わっていないことも多々、あったので皆様にしっかりと伝わるように改善が必要だと思った。今後も保護者とコミュニケーションをしっかりとりながら信頼される事業所になれるように取り組んでいきたい。